

2025(令和7年度)卒業生の保護者のことば

伊那西高等学校

普通コース K・S さんの保護者より

娘が伊那西高校に進学することは本人、私たち親も想像していなかったことでした。正直なところ私立・女子高にあまり良いイメージがなく、すごく不安でした。娘はなにも言いませんでしたが一番、不安だったと思います。入学当初は、不登校になったらどうしよう、友達ができなかったらどうしよう、いじめにあったらどうしよう、そんなマイナスな考えばかりでした。そんな不安ばかりのスタートでしたが、この三年間は本当に娘を大きく成長させてくれました。学校行事・クラブ活動・委員会活動・授業のどれをあげても文句なしの高校生活だったと思います。

人とかかわり合いがあまり得意でない娘でしたが、高校に入ってから積極的に人前に出られるようになりました。クラブ活動ではキャプテンをつとめ、毎日の厳しい練習に耐え、仲間との絆を深め、戦いに勝つ大変さも学びました。娘が大きく成長できたのは先生方が、一人一人の生徒の特性を見極めて導いてくださったおかげです。

高校に入ってからの変化は家庭での娘との会話が増えたことです。学校生活でのことはもちろん、茶華道の授業のお茶菓子を持って帰ってきてくれて、二人で食べたことも良い思い出です。(お茶菓子を買って、娘と自宅で食べるという趣味もできました。)

中でも印象に残っているのが「仏教って、勉強に関係ないかもしれないけど、仏教を学べてよかったよ。」という娘の言葉です。今のご時世、スマホで調べれば自分の知りたい情報が入ってきます。自分が知りたい情報だけを知りたいところだけ切り取って、受け取ることができます。そんな世の中だからこそ、昔々から語り継がれている仏教と言う授業が心に響く良い時間だったのかもしれない。

また、伊那西高校は娘だけでなく、親との関わり合いも大切にしてくれる学校であることも驚きました。私は、PTA活動でお世話になったのですが、PTAの活動は面倒だからできれば避けて通りたい派の私でも、役員を引き受けて良かったなと思える学校でした。

今、娘は大学に進学し看護師になるという夢のスタートラインに立ちました。また高校入学時のように不安もあると思いますが、この学校で学んだ人を思う気持ち、優しさ、忍耐力できっと、大学生活も乗り越えていってくれるはずです。娘が伊那西高校に入学してくれて本当に良かったです。素晴らしい高校生活と楽しい思い出をありがとうございました。三年間お世話になりました。

(岐阜聖徳学園大学看護学部看護学科へ進学)

進学コース C・O さんの保護者より

「〇〇高校に行く！」と、家から一番近い高校へ行くと話をしていた中学生の頃の娘。ところが伊那西の体験入学に参加させてもらった直後、「伊那西に行きたい！」に変わりました。学校の雰囲気、先生方や先輩達の素敵な対応に触れて、通いたいと思ったそうです。

実は私も伊那西高等学校の出身です。学校の良さをしっかり実感している私は、娘が体験入学に参加してどう感じてくれるかなあと考えていましたが、私と同じように感じてくれて「やっぱり私の娘だ！」と嬉しく思いました。

入学してからの娘は、本当に毎日楽しく元気いっぱいに過ごしました。気の合うクラスメイト、大好きなバレーボールが出来るクラブ活動、話を聞いてくれる先輩、寄り添って下さる先生、この学校の環境が娘にとって充分だったのだと思います。

そんな毎日でも、楽しく元気いっぱいでない日もありました。クラブで何かあった時はクラスメイトが、クラスで何かあった時はクラブのメンバーが、話を聞いてくれ、独りになる事はありませんでした。勉強や進学に関しては、娘は進学コースでしたが、大学への進学を決め、コツコツと頑張っていました。なかなかその頑張りが点数に繋がらず、不安や心配がありました。担任の先生はそれを分かっている様子で、「大丈夫です。いつか結果はでますから」と言って下さいました。その言葉にとっても安心させてもらえ、実際に志望した大学に合格する事ができました。クラスメイトも勉強する時はしっかりやるという姿勢が身に付いていて、学校以外でもフリースペースに集まって、みんな勉強する雰囲気がとても良かったです。

伊那西はきまりが厳しいと言われる事もあるかと思いますが、でもそれが社会に出た時、とてもプラスになる事だと私は感じています。厳しい事は今の時代にそぐわないと言われるがちですが、やっぱりダメな事はダメ、決められたダメを受け止めて、じゃあその中でどう楽しめるかを考え、行動出来る対応性をしっかり学べる。そんな娘達はどこに出ても安心して見てもらえる素敵な大人になっていけるはず。とてもありがたい三年間でした。

(淑徳大学総合福祉学部教育福祉学科へ進学)

普通コース M・S さんの保護者より

「伊那西高校は先生が丁寧に関わってくれる」という先輩の話を聞いて体験入学に参加しました。建物は生徒がきちんと清掃を行っていて、とても清潔感がありました。体験入学で授業や部活に参加し、学校が気に入り受験することになりました。

新しい生活は親としても心配でしたが、入学式の時から学校の雰囲気や先生方の対応に、ここなら娘をお願いしても大丈夫だろうという安心感を持ったことを覚えています。

入学当初は、今までにやったことのない茶華道クラブに入りました。クラスの仲間も出来、楽しい高校生活が始まりました。1年の夏休み頃に、バスケットボールクラブから「クラブ員が足りず試合に出られないため入らないか」と誘われました。中学でバスケットボールを始めましたが、当時は経験者が多く、娘はほとんど試合に出ることがありませんでした。娘は「経験不足の自分が入部することで足手まといにならないかと不安もあったようですが、顧問の先生のことばで「出場するために協力したい」ということで、掛け持ちでの入部を決意しました。

バスケットボールクラブの活動は盛んで、中にはキツイ練習もあったようです。その中で助っ人とはいえ、娘がやっていけるのか親として不安もありましたが、先生やチームメイトが丁寧に教えてくださったことで、日々の練習をこなすことができ、少しずつ技術も上達していきました。入部当初の娘は「少し協力する」という思いくらいだったと思いますが、もっとうまくなりたいという気持ちが日増しに大きくなり、いつしか「チームのために自分なりにできることは何か」と、一生懸命やっていました。

ウィンターカップの予選では、チームメイトが娘にボールを集めてくれ、試合で初めてシュートを決めることができました。チームみんなが自分のことのように喜んでくれて、本当に素敵なチームだと思いました。新人戦では、県大会準優勝という結果を残すことができました。

いつかしバスケットボールの活動がメインとなっていきましたが、茶華道での活動に際し、顧問先生、クラブ員がいろんな協力をしてくださいました。日を改めて所作を教えてくださいたり、イベントの当番割り振りはバスケットボールの活動と重ならないよう組んでいただいたりしました。

クラブ活動以外の学校生活では、人生で初めて合唱コンクールのクラス伴奏を任せられました。時間のない中でしたが毎日練習し、努力したことが良い経験になったと思います。

また、2年生になった頃から自分でやりたい事を見つけ、目標となる学校を決め、より勉強にも力を入れるようになりました。受験勉強に際しは、わからないところをクラスの友達が教えてくれました。そして、たくさんの方々に支えていただいたことで、第一志望だった学校へ進学することができました。

今思うとあっという間でしたが、伊那西高校で充実した三年間を送ることができて本当に良かったと思います。

(長野県公衆衛生専門学校歯科衛生士学科へ進学)

普通コース Y・Nさんの保護者より

娘の高校三年間を振り返ると本当にあっという間だったと感じます。

入学した頃は新しい環境に少し緊張している様子もあり、環境に馴染めるだろうかと思守りながら過ごしたことを思い出します。それでも日が経つにつれて学校の話を楽しそうにしてくれるようになり、少しずつ高校生活に慣れていく娘を見て安心したものです。学校や友達との出来事を話してくれる時間は親にとっても楽しい時間でした。高校に入る前、娘には将来の夢がありましたが高校生活の中で多くの人と関わりさまざまな経験をするうちにその夢も少しずつ変わっていききました。

2年生の時には担任の先生に声をかけていただき生徒会副会長を務めることになりました。最初は戸惑いもあったようですが、責任ある役割に一生懸命取り組む姿や前向きに頑張る姿はとても頼もしく見えました。特に文化祭の準備の時期は休みの日も学校に行き、忙しい日々を過ごしていました。それでも娘は疲れた様子よりも、どこか楽しそうでとてもいきいきしていました。仲間と協力しながら何かを成し遂げる喜びや責任ある役割をやり遂げた自信は、これからも人生の大きな支えになると思います。そのきっかけを作ってくださった担任の先生には感謝でいっぱいです。

伊那西高校での三年間は娘にとって素敵な出会いや時間を過ごせる場所だったと思います。三年間ありがとうございました。

(伊那食品工業株式会社へ就職)

普通コース S・Iさんの保護者より

我が家は2人の娘が通わせてもらいました。

娘が中学の時に、PTAの行事で高校視察に参加して、伊那西高校にも行きました。やはり保護者の方々の一言目は、「校舎が綺麗～」。次にでてくるのは「でも私立はお金がかかる…女子高はね、いろいろあるじゃん…」という言葉。当時の私も同じ思いでした。

しかし、志望の決め手になったのは、娘たちの通いたいという思いと、規律正しい学校ということで、社会に出てから絶対ためになるという私の思いが合致したことです。

実際に通わせて感じたのは、学校、先生方が、生徒、保護者に対してとても手厚く接してくれたことです。また、高校卒業後の進路指導も、不安な子ども達に丁寧にやって下さいました。

そして何より、先生同士がとても仲が良くユーモア！こんな環境に居るから娘達は楽しい高校生活を送れていたのだと感じました。

2人の娘は進学し、長女は就職しました。今、伊那西高校で学んだことを糧に頑張っています。

6年間大変お世話になりました。ありがとうございました。

(飯田短期大学生生活科学学科食物栄養専攻へ進学)

普通コース M・K さんの保護者より

中学生の頃の娘は消極的なタイプで目立つことが嫌いな子でした。そんな娘が伊那西高校へ入学し、入学式のその日に隣の席の子と話をしている姿を見て安心したのを思い出します。

入学前から家庭科クラブに入ると決めていた娘でしたが、当時の担任の先生から「人数の関係で他のクラブを考えておくように」と言われました。じっくり考えた中、「ソフトボールのマネージャーでも良いですか？」と先生に聞くと「いいじゃん！ やってみなよ！」と背中を押してくれ、入部しました。プロ野球が好きな娘ではありますが、単に観戦しているのと、実際の活動は違います。娘はマネージャー業という大変なことをしながら、時に選手と一緒にキャッチボールをしたり走ったり…朝早くから夕方遅くまで毎日必死にやっていました。

そんな日々が続いた中、2年生の途中で娘はマネージャーから選手へと転向しました。親としては心配もありましたが、娘の顔つきは生き生きしていました。3年生になると、クラブの副キャプテンやクラスの副ルーム長を務め、本当に変わっていく娘を身近に感じ嬉しく思いました。

好きな事を見つけて全力投球した三年間は娘にとって大切な財産になったと思いますし、親にとってもかけがえのない時間を過ごす事ができました。

このような素敵な時間を過ごす事が出来たのも、伊那西高校の先生方のサポートがあってこそだと思います。本当に感謝しています。ありがとうございました。

(専門学校ビジョナリーアーツ東京校フードクリエイティブ学科へ進学)

進学コース M・Y さん、J・Y さんの保護者より

伊那西高校では姉妹ともに6年間お世話になりました。はじめは女子校ということで心配する部分もありましたが、その不安はすぐに払拭され、クラス・クラブ活動の両面で充実した学校生活を送ることができました。長女の姿を見て妹たちも自然と伊那西高校を志望するようになりました。

進路指導においては、入学当初より担任の先生が自身の受験経験を踏まえながら、早期から進路を考える重要性と、主体的に将来を見据え、志望校選択や計画的に学習に取り組むことの大切さを心に響くように導いてくださいました。また先生方がどの生徒にも自分のクラスの生徒のように親身になって接していただき、英語で分からないところを聞きに行っても丁寧に教えてくださいました。また、受験や面接練習に悩んでいる時に「まずは身の回りの整理整頓をすることで心の整理をすることが大切」とのアドバイスにより早速実行することで気持ちがスッキリとし、安心して受験に臨むことができました。そのおかげで娘は志望校に合格することができました。

また、伊那西高校では希望者が海外短期(留学)語学研修に参加することができます。生きた英語や異文化に触れることで視野が広がり、グローバル化が進む現代において貴重な体験ができたことは本当に良かったと思います。

さらに、学習面だけでなく、仏教教育や毎朝の瞑想を通して「人としてどうあるべきか」を学びました。日々のホームルームでは「転ぶことを恐れるのではなく転んだら立ち上がる精神」や「自分らしさを大切に失敗や困難があってもその先の成功や感動に出会うために努力すること」といった人生における大切な教えを心に刻むことができました。

クラブ活動では、小学生から続けてきたバスケットボールを高校でも継続し、朝夕の練習に励みました。仲間にも恵まれ、シーズンの集大成である最後の新人戦では県大会準優勝という成績を収め北信越大会の切符を手にすることができました。残念ながら大雪により大会は中止となってしまいましたが、子供たちは「同じ目標に向かって気持ちを一つにすること」や「チームワークの大切さ」を学び、この経験は今後社会に出てからも必ず活かされるものと感じております。

これからも伊那西高校で学んだことを大切に、一歩ずつ夢に向かって歩いてほしいと願っております。三年間にわたり温かいご指導を賜り、本当にありがとうございました。

(長野県看護大学看護学部看護学科へ進学)

(神田外国語学院インターナショナルコミュニケーション科国内大学編入コースへ進学)